新板

教訓私經齊

三之巻

1652
3

明治

教訓松屋育

第一　神主の後世願ひ祈り奉る事

同録

藤中乃男達をあつらへさせ
佛極楽ひらけこんぐれ
紫雲の樂屋へも蔓乃遠ひ

才二　偽の神を好き者こゝの陳明神
四命言葉を書やゝ糸ありちりる
神ぐらのうちぐさかけくたのむ

才三　女房の力自慢い石の引ちぎり
男のよんみてとり成ゆき気と
しりの人に引ちぎる四ぼの
武勇ひろめ世の中

一　神主の後生をねがひ数珠の玉事

ふつゝ拾紙衣羽織をさびさる席結構釈門れたゞ交合者よ
此極ありと丹まてさるとあり〳〵神代巻第十一月二百映ちりと押
そる神宮しかれあるべし。今いむし一寸の糸五條あるり。
蕊名尾山伝と云る義右巻。神去のかゝとてをれ。指かれ伝法
を置り。地獄極楽入るつゝ極てとなるぬ。ちゝしるひ
ふ鼻ときとりひぢの溝中ひ米に経器ろく。林畑木綿袈裟
なぐ〳〵ぬふ布と茄子葉まで生ぬ。今まで紙ふ紙ぬ
ちひく。儀にこれの大袋をさづり。脇くみ切とて来く。祖父のそき
汗れたとて。細えゝの肉かゝ。寒くかれ〳〵伝禮。ちくぐして風呂
ゝ陽麿の業り釈書し味噌塩の小ぐりに引さる指ろ〳〵あり

卿所老と南ともろ者の字へしへ字ふ字びいとふケ。其後
の毒に名をとそて。ふ字乃ケ字ちいく。このどくゝ毒をを
かまそびゝへ犯の位牌へ生翻ともへ。命日とあれと買人のあと
友倡とあの門ゝ。傍ゝり食ゝり。世名よりめくれ法ゝ毒ゝ仏あと。
傍るかしゝとゝ。行そこひゝけね高若よあゝゝ。ゝゝ高ゝ高ゝ
ゝゝゝれ思ゝかゝて。百日法死ゝこいねこいゝの声人ゝきくゝ
ゝゝかゝね行ゝ。猶変ゝる新世ふ。ふ。ゝり名中に。ゝ加当ゝ毒祥
の方祝法式紙の起ゝゝ。ゝ老人ゝゝゝゝより茅ゝ流の信ゝ。
ケつゝ。家ゝ。ゝよ分ゝとゝつと。法ゝ門ゝと。ゝゝゝ。ゝ祥紙のゝ高で
祥ゝゝ。ゝとそゝ。傍尼ゝ忘ゝ。ゝゝと稼ゝゝて。ゝ。ゝ犬ゝ法ゝゝ恐
ゝゝとゝ。ゝ名ゝ。ゝ法ゝ。ゝ。ゝ高ゝ高ゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。

なるべしいかゝぞ後刑部殿の御くとりはさとたのもてんぐをとん
あてけりなんけんぶ御合をこうけれ後れさしてはそぐれをのこく
伊勢の海をあてもむとそうし一里のくもをいとさらこるぼ長に
乗れんぶたりこひるでうれたりしおとこの孫とつく貝の孫をこの長り
こんをぶがゝあるひとりぶをあ加へ行くゆもべぶアけ逆友もあこれ
こてぶたりあしたりでんのなれ男とそひぶそのこの孫大ふ先つさ
くぶいくらく伊予ぶ屋かなどにそまぶ婚奈和して老賢の
かとこをあくんぶえ孫こまの孫なりとて実有ぶ深蔵て珠蔵後蔵孫
とりよ五毒あるあて服のむ蘇回かどいこ少ぶあてあくんぶ
熟さめがくぶとかくるぐゝ痩おくていれどゆるたわくをれた長も
かけあくいぶぐんの孫れげのやありくんぶいあ竜丹のゆりあやあり
ゆんぶせとこりしあの海ぶりくとあゝれぶんとそひ蔵のみぐれ

おぐゝぶ蔵ふりゝとぐれつこぶ二十九るがそれ四ぶ宵ふ海りてあら
ぶこねゆんなるくさのまく寒遠くぶ偽ふきゆくさ。なくこたよ
かくこれくさ乱くるあれこひれぶ一度あいふりこ乱なる形ひ
のくりたいよぶひけまようひょううなくぶのくんの乃
見れをあるゝうなんみゆのと俗る後とくんくれぶ芳蔵きくく形は
なれれるぶこねりかぶくうくくぶ二月ゆよゆぎるれも長いまつとなく
蔵とあくぶみ乱るつまめこゆゝぶそれるう毒長くかよい乱ことくく
くしかくくんぶ面やせ日のくくとまりもせるくくぶでふ二十九日いゆ
くる長ぶるるどる乱あれこくぶ行よゆんなくくと乱くと青いその孫
かゆひがくしぶれくくぶ天上の果をゆくぶるひ三ふのがり成れる。
くれくくが天ゝのがる考りとんくいよくくれを乱ひゆくくとぶすゝ
とくゝぶ蔵ひくがりるよびさくぶりでまゝたらまる蔵の所と

まつかく中に、さ〜べくのあるかりしてうせそうそうそうぶの
地獄後世おそろしくなりぞまて祈とと楠につめて仏法を聞と
ける罪の報をいろぐさんと。会仏之時にのんとをれぐ。往昔代々の家法と
いひ。六十餘年までそ〜つ生涯をりしまへ〜われ。世人はやへ〜
どくうり。源氏あれ。あくのろれ仏ぐんをちらへ。そも四のめくるまへ〜
天々之仏の内の四仕壇といくせ本てそ〜らへくろ仏そろへくたいくちを
めくぐじくくもせうかろ仏さめくぐ法華ふとろへ。ぐらうれ
彩仏此功徳。広極公中とい往生仲ろへくうとがれぬる細ハ。ぐんぐろ女愛ぶ
毎仏身ありてぬろへ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬのり。あれ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ
ひ〜ぬ中とねぐられ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ
うけうの附寝床の松りとうへ。両々陽のさ〜ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ
ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ

まへ〜ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ
されぐ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ
なけ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ
ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ
ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ
ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ

●　㊁　信の神乃始ハ南無阿弥陀仏

唯りろくの抵行を識く。西行よ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ
ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ
ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ
ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ。ぬ中ぬ

ゑ号者と乃ひまろり。てりく文ぼ秋祢以師函と皮ゆ。遊子
入一名に乃ぼ乃の舎に由よとて悪頭とゝゝけろ〻ぼ和ゐり
由く見れば先と乃ゝの人九そこのゝお新て、て、てのゆ乃ゝ
に商人のゝろもゝぶゝる布みゝさゝろハ出条の墨屋ゆうゐけも
そと六条れ見人どのとゝる者れゝらてゝうゆまへ乃その沢ハ生ゝぶゝろ
高ゝりゝうてゝゝうゝんでゆるのゝと坊ゐ。左へゆけゝて左ゝ法師と
名づけゝもゝぎゝゝほの祢ゆゝ名ゝれゐ方ゐ見ゝ見ゝ屋の俗でゝゝぶゝろゝて。
ゐゐれゝゝゝゝてかけでゐけゝ。ゝゝゝ六ゝ和ふ仕ゝゝろ高無男ゝと
ひゝくゝゝとかゐびけにゝびけゝゝぶゝり。ゐびてゝゝとゝ九ゝを乃ゝぶゝらく
もゝぶゝさゝろゝ角く祢ゝらゝゝさゝゝゝて左へゝゝ左ゝ乃ゝ
業乗ゐゝうゝべ。ゝゝはの臨布やゝゝゐのゝくとゆゝゝちゝゝゝとゝゝゝ。
八ゝ屋のゝひとゝゝゝゝゝたのゝゝゝゝゝゝ。ゝ乃ゝゝゝゝ草苔にゐさゐねゝゝゝと。

舎廊のゝんゝゝゝすゝゝゝゝゝゝ

極楽へまいらう。都命たくさんにして、八幡の御ふみをてかけく。
そこへいのくきうわのかつらぬ。本体稚しも恵くそのあるより
ゆうさんしかたのもとの戸へかくしてのち御ねそろく葬れ仏ゆくらを
むさくけがつくく。代傍をつつ。白紙と仕る身暗になり
くれぐれとあの方に秘来をあつしも沙人ふ仏くあさびしくあくく人一
とあの母彼や俗ゆこいよがきくうてゆがあるとそのつめでにゆと
生十七十八の出頭ゆ色うでこざれば一句者金ふ俗力年れどさ人信
ぶれゆにはよるうまいくこびにこざりまさねとくべ信ねあさくて。
まれいつもくゆれあるくまくゆさせくあり。ねう蛇ゆ
とうもちびにこざくぬつくあてあなされそのうけを
まの法泡わ来ハ左の色ゆ四ねぐこざつてもさ世ふくてあ面ハ
神ゆくたこそのゆ出来まれ仏ゆ神のゆ恵へ殺すらなくて。

同ゆもまんねぬ法の世ぶのくこうくさし者へじゆぐらとれ仏すくうり
てくを現行ふとう方がようぶこざらふれでもふ来ふとう御来
ぶく代地をうりくこのてうこうりもぐうろうさ仏のうんねぬ景色一のほれ
ちくて者くて凡くうくゆれくくをあるなぶ見信信一句ん女気
ぶ法へくる耳色うびゆ法くくねのくれとあくんいくくれた
れゆ者へなんぶかの現行とうげうりゆ理ふゆくてうゆ法ゆ
ありがくこの地くうゆぶちくさいて凡くくふゆじくくそれより法中へ
ゆくくて仏ねくくえ生くあゆ不ゆれたのり。御今下ゆ者ゆれふくと
ゆくをなぶ法国者巣蹴坤気乾ゆまうぶくくとりまくさる二河白
の場ふたぶうひるゆ心ゆ法仏ゆれくもあ一に法中へやりれくん。絵来ゆぶ
ちくねくくこねぶ北ゆちぶ人ゆまれふなうゆ者の不ゆあ日彼ゆ仏ゆ乃
不ゆ思ぶくゆ。仏ねゆ思者くを仕ゆくく

内侍はやもかくも若狭に信と月てんと。像ふくり札をいでゝ。こと七日の百
法後の元もゝ。さらのおかたはよ。慶さの月つきが近いてくの。法後をも
さて祈よめつくさ。ぱの正覚。仏。月ごとやうこゝろやとどこもかもみまくく
まゐして。さふ。元さるく。教回者さ。ぱくまづ法をそらど
ゐ内侍ねひ。居月みくひそふ八角の壇をめぐりかしてゝ八神
をうくみつめ。元年。さやもゝ。堂のへ。おはさらて。僧侍。行につ
はさ出よびつくりもく。衣門ゐけ。鳥。袈裟ゐけてやつけぬやうえく
ねぐ。めよみ。細らくまりいぐ。おえの。おをひゝさ。ぱうつ。ぐゝしく
典命。宣旨。書や。朱典。宣。南。宣。ぱ。おくぐ。ぱ。朱。ぱ。
合ゐ。ゐくと。ぱ。猛しく。涙ゐ。ゐ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。
ふのでくまく。猫。合。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。
くよりけるい。ふ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。

ゐふ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ

[illegible]ぬてのあるとうく神々の痕跡ぞとぞうら[illegible]
[illegible]ありがたくこれ口癖ぐ[illegible]ゆめく[illegible]やありぐ[illegible]
[illegible]せの人面社大明神と一白[illegible]
[illegible]ものすかまく神かなるものすかぬすれぞて[illegible]
[illegible]くなるとうぞ社のふまるく[illegible]る弁の宮をぞうとうと言葉もの
てあるへ[illegible]とその名も感ぜしてそも神の出方ぞうあ[illegible]
とんぞうもしの色めるねたるぞ[illegible]

(二) 女房のかの自慢の石乃[illegible]ちぎり

押橋の間宗が馬勃論ま[illegible]資瞞番を捜と書伝へしを[illegible]
事ぞ[illegible]ぞれ猪[illegible]大猪と[illegible]へ[illegible]たじき法人へ[illegible]
肉肥つく[illegible]流れ[illegible]方餐[illegible]
柄[illegible]ぬらく[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の胸[illegible]ぬ[illegible]のごとく[illegible]
[illegible]ぬ用心と[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゑいぬけの法かさとれさといへば。幕の間ゑい御の流儀でさりけ
弟よりてまつりと。言もてびひそまりのろうて。所作は流
をのりてのすこしくろかる方繁ゑて。まみうびーがくらへ。御ゑ
脚爲ゑうと見くでーその高流ゑ侍かくーだとーかぜ出くつ先
ひくーさてねそし和くーゑらんてもぴまくーゑかに所術役術は
見さゑもなくんびとひらびたくひ仕さ大ぜ侍よのくく出さくねゑ。
くーねけざくくひと悪にーてそくろ。ぜく幕にとそけ。ぜくぜーく。
あそんてさてくるくてたくくゑへ。えの所へなどかそんくかくゑ
乃きくゑすずくゑ格かぜまへのかくくらでくくろとかり移ゑ風れ
てもぜゑのあくーざくもとくるゑでーでるくぜくくかくくーさなくれ
どくくも。ゑ希とあげくくねゑと出くくくゑくんくくとくくくゑ
新ゑりにかぜくとひくくんぜゑかくくゑ。食ゑ侍へくろくくーこと。

ゑくくくひさくくくくそもくくくろへくくーこくくぜくくくくくゑのづゑとゑくゑ。
ゑかかくくくくく

毛ふ上ふ人にこそべきさま。身まえたくの面目ありぐさ深へとぐ。
さうそくは作よくおよりぬ。ぬぐ紫して月ろ行ぬ。ろ行あ
みぐいあ武家のほとりいりてもんもあ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。武家
女房ともしてありつきあろぐやとぞ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
えぬ家わ列いお様おうく。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
とぐしくかづよのろ女とくなくぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
四うといよめもなくて。家ともろも中内は十人並ぬりをあけを
妹とくへ世八名流ぐうく。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ代ぬぐ前ぬくぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
つぐ。動をお様ぐあるべ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
あつぐ。ぬの方は方のぬぐうくぐ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

ござりまするゝ仕てらんいさのゝござゝねたゝ若ゐ掛とゝうそでござり
まする行ふゝ之ゝとそも一ゐゐまくてんくゝようござ自分ゐゝくゝをそなざる
でゐゝりませう。おらゝゝれあゝゝをそていちゝいさんとあゝりまをゐおそ
一日ふゝ寿ゝん来でゐあつゝりとあるぞよござりまするゝ。おせのなゝくゝ
みんゝ紅の紅のせゝりみとゝこゝすゝゝでわゝゝ後ゝゝむゝらゝくゝとまゐるゝ
ゐゝ。祖入ゝゐゝゐゝ姫ゝゐるゝとゝゝゐれべゝさゝ一ゐつゝくゝこ百石といふ知りたゝ
分ゐをていゐ中ゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝれゝさゝ去ゐ結髪とつんゝゝれゐ後ゝゝら
吉日良辰とゐゝゝび。裏入のゐゝゝゐゝゐゝゐゝ方ゐ方ゝ平野の
大阪ゝゝゐゝ御帽子ゐゐるゝゝゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝ屋敷へ
乃ゐゐゝくゝゝゝみゝゝ所ゐゐゐゐゐゐりゐゐ基盤のゝゝゝ行くゐゝくゐゝ十ゝ八
ゐゐゝ腰元の女とのゝゝゝ。ゐゝゝゝゝゝゝゝゝ

こうりーてはきくゆけぐ古狐用五代のあぐーぐちとしくと大をあもあ五代そこと
のーろとさいくふるからつれ古乳毛五代とぐりとぐざれーーが毛代のあ
ーーんぐけのでも乳ぐくも出ーぐぶつくーーのとすーとぐーかいつのとぐで五代ぐ代ぐ五士
四毛高ちんぐ用ぐの狐毛のはて高くかーーろーぐーーー